

理事長退任によせて



理事長 前理事長
顧問 跡見 純弘

昭和六十二（一九八七）年に就任して以来、二十二年の長きにわたって務めた理事長の職を、昨年九月に退任いたしました。

在職中は、皆様より多大なるご理解・ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

振り返ってみると、この二十二年間は跡見学園の新たな基盤づくりをする期間であったといえます。

就任当時、学園は大学・短期大学・中学校高等学校、そして法人事務局という四つの機関がそれぞれ単独に機能し、横の連携が余り見られない状況でした。そのため、週一回行われていた本部連絡協議会（現在の経営会議）の議事録の内容を、すべて包み隠さず公表しました。これによって、学園の全教職員が学園の向かおうとする方向性を共有できたのです。

同時に手がけたのが、校舎をはじめとする施設・設備の整備拡充でした。老朽化していた中高の校舎・体育館の全面建て替えを皮切りに、短期大学の体育館再建、大学図書館の設置等々、施設・設備の充実に取り組んでいきました。

ハード面の整備に一区切りがついたところで、次に手がけたのが大学の学部・学科増設です。開設に当たっては、学外の有識者を招いた「協力者会議」で得られた学園高等教育改革の素案を基に、平成九年に学園教職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、平成十三年まで四年弱にわたり、学園が目指すべき高等教育の姿について様々な議論を尽くしました。その成果として生まれたのが、平成十四年に開設した女子大学初の「マネジメント学部」という社会科学系の学部です。女性の社会進出が

活発となり、キャリア志向の女子学生が増えてきたこと、実社会で求められるマネジメント能力が身につくことなど、学問内容が社会の趨勢や時代の要請に合致したこともあって、現在では文学部に負けないほどの志願者を集めるまでに成長しました。

その後も学科の拡充を図り、今春には文学部に現代文化表現学科が、マネジメント学部には観光マネジメント学科が開設予定となっております。この結果、女子大学は当初の文学部のみを単科大学から二学部七学科を持つ総合大学へと発展致しました。

一方、短期大学は女子の四年制大志志向の中で年々志願者が減少し、その存在価値が問われるようになって参りました。こうした社会的背景を受けて、本学でも平成十九年三月をもって短期大学部を閉学し、短期大学部の学問的資産を大学の新学科に生かすことに致しました。

短期大学部の募集停止によって、茗荷谷の短期大学部西館の跡地には一昨秋、大学新校舎（二号館）が完成。これを機に、茗荷谷キャンパスは文京キャンパスと名を改め、すべての学生が一・二・三次は新座キャンパス、三・四・五次は文京キャンパスで学ぶことになりました。

スで学ぶことになりました。

このように、大きな障害もなく改革を推進してこられたのも、私自身が跡見の家系を受け継ぐ者であったことのみならず、商社出身であったことが幸いしたのではと思っております。残すべき伝統は守りつつ、客観的な外部の視点で改革に取り組むことができたのです。もとより、学内外の学園関係者のご協力があったこそ成しえたことは言うまでもありません。また、卒業生の皆様の学園に対する厚いお気持ちには、常に助けられて参りました。学園は必ずより一層発展して参ります。引き続き変わらぬご厚情を賜りたくお願い申し上げます。

学校教育を取り巻く環境は、ますます厳しさを増しております。山崎新理事長はこれまで苦楽を共にしてきた同志ともいえるべき方です。大学・短期大学部・中学校高等学校のすべてにおいて学長・校長を務められていたため、より現場に近い視点から学園のさらなる発展に貢献いただけるものと、大きな期待を寄せております。

皆様におかれましては、今後とも学園に対するなお一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。